

令和 7 年 11 月 5 日

食品安全委員会
委員長 山本 茂貴 殿

遺伝子組換え食品等専門調査会
座長 児玉 浩明

遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

令和 7 年 2 月 10 日付け 6 消安第 6325 号をもって農林水産大臣から食品安全委員会に意見を求められた飼料「除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズ MON94313 系統」に係る食品健康影響評価について、当専門調査会において審議を行った結果は別添のとおりですので報告します。

(案)

遺伝子組換え食品等評価書

除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオ
キシアルカノエート系及びトリケトン系耐性

ダイズ MON94313 系統

(飼料)

令和7年（2025年）11月

食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会

<審議の経緯>

- 2025年2月10日 農林水産大臣から遺伝子組換え飼料の安全性に係る食品健康影響評価について要請（6消安第6325号）、関係書類の接受
- 2025年2月18日 第972回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2025年2月28日 第262回遺伝子組換え食品等専門調査会
- 2025年7月31日 第266回遺伝子組換え食品等専門調査会
- 2025年11月5日 遺伝子組換え食品等専門調査会座長から食品安全委員会委員長に報告

<食品安全委員会委員名簿>

- 山本 茂貴（委員長）
- 浅野 哲（委員長代理 第一順位）
- 祖父江 友孝（委員長代理 第二順位）
- 頭金 正博（委員長代理 第三順位）
- 小島 登貴子
- 杉山 久仁子
- 松永 和紀

<食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員名簿>

- | 2025年9月30日まで | | 2025年10月1日から | |
|--------------|--------|--------------|--------|
| 児玉 浩明（座長） | | 児玉 浩明（座長） | |
| 佐々木 伸大（座長代理） | | 佐々木 伸大（座長代理） | |
| 伊藤 政博 | 手島 玲子 | 伊藤 政博 | 中島 春紫 |
| 小野 道之 | 樋口 恭子 | 小野 竜一 | 中村 亮介 |
| 小野 竜一 | 藤原 すみれ | 古園 さおり | 藤原 すみれ |
| 柴田 識人 | 百瀬 愛佳 | 柴田 識人 | 百瀬 愛佳 |
| 爲廣 紀正 | | 爲廣 紀正 | |

<第262回遺伝子組換え食品等専門調査会専門参考人名簿>

- 山川 隆（国立大学法人東京大学大学院）

<第266回遺伝子組換え食品等専門調査会専門参考人名簿>

- 山川 隆（国立大学法人東京大学大学院）

要 約

「除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズ MON94313 系統」について食品健康影響評価を実施した。

本系統は、ダイズ (*Glycine max* (L.) Merr.) の商業品種 A3555 を既存品種とし、*Streptomyces viridochromogenes* に由来する *pat* 遺伝子、*Stenotrophomonas maltophilia* に由来する改変 *dmo* 遺伝子、*Sphingobium herbicidovorans* に由来する *ft_t.1* 遺伝子及びイネ (*Oryza sativa*) に由来する *tdo* 遺伝子を導入して作出されており、PAT タンパク質を発現することにより除草剤グルホシネートに対する耐性が、改変 DMO タンパク質を発現することにより除草剤ジカンバに対する耐性が、FT_T.1 タンパク質を発現することによりアリルオキシアルカノエート系除草剤に対する耐性が、TDO タンパク質を発現することによりトリケトン系除草剤に対する耐性が付与される。

「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成 16 年 5 月 6 日食品安全委員会決定）に基づき評価した結果、本系統では、新たな有害物質が生成されることはないため、肉、乳、卵等の畜産物中に新たな有害物質が移行することは考えられない。また、遺伝子組換えに起因する成分が畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性や、家畜の代謝系に作用し、新たな有害物質が生成される可能性は考えられない。

以上のことから、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）に関する食品健康影響評価指針」（平成 16 年 1 月 29 日食品安全委員会決定）に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。

I. 評価対象飼料の概要

(申請内容)

名 称：除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズMON94313系統

性 質：除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性

申請者：バイエルクロップサイエンス株式会社

開発者：Bayer Group (ドイツ)

「除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズ MON94313 系統」(以下「ダイズ MON94313」という。)は、*Streptomyces viridochromogenes* に由来する *pat* 遺伝子、*Stenotrophomonas maltophilia* に由来する改変 *dmo* 遺伝子、*Sphingobium herbicidovorans* に由来する *ft_t.1* 遺伝子及びイネ (*Oryza sativa*) に由来する *tdo* 遺伝子を導入して作出されており、PAT タンパク質を発現することにより除草剤グルホシネートに対する耐性が、改変DMO タンパク質を発現することにより除草剤ジカンバに対する耐性が、FT_T.1 タンパク質を発現することによりアリルオキシアルカノエート系除草剤に対する耐性が、TDO タンパク質を発現することによりトリケトン系除草剤に対する耐性が付与される。

II. 食品健康影響評価

1. ダイズ MON94313 には、除草剤グルホシネート、除草剤ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系除草剤及びトリケトン系除草剤に対する耐性の形質が付与されている。遺伝子組換え作物を飼料として用いた動物の飼養試験において、導入遺伝子又は導入遺伝子から産生されるタンパク質が畜産物に移行することはこれまで報告されていない。

2. ダイズ MON94313 は、食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会において、「遺伝子組換え食品(種子植物)に関する食品健康影響評価指針」に基づき、食品としての食品健康影響評価を終了しており、人の健康を損なうおそれがないと判断している。

1及び2を考慮したところ、ダイズ MON94313 に新たな有害物質が生成されることはないため、肉、乳、卵等の畜産物中に新たな有害物質が移行することは考えられない。また、遺伝子組換えに起因する成分が畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性や、家畜の代謝系に作用し、新たな有害物質が生成される可能性は考えられない。

以上のことから、ダイズ MON94313 については、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品(種

子植物) に関する食品健康影響評価指針」に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。